

平成30年度事業計画

基本方針

- 1、凸版印刷(株)との提携を強化することで、より広く事業を展開する。
○お寺アート展、定期的な東京でのアート展を開催、更に下記に記載した協会を共同で設立。事業を全国的な規模にする。
○JASCAPを設立することで、障がい者のアート中心により広い商品の全国的なネット販売網を確立する。

Japan society of Challenged arts & products

- 2、利用者の安定的な確保、相談支援利用者の増大を図る。
- 3、会員を増強して、安定的な収入を確保する。
- 4、事業形態をNPO法人から社会福祉法人に変更し、福祉事業に特化することを検討する。
- 5、第8回チャレンジドアートエキスポインジャパンのテーマは「ゆめ」それにふさわしい拡大した企画にする。共催団体の増大、参加アーティストの増大、参加団体の拡大、来場者の増大策を講じて3,000人の来場者を目指す。
- 6、わんぱく学園 オランダ校の開設による知名度のアップを考慮。
- 7、それに伴うマスコミでの報道を活性化し、会員、利用者の確保を目指す。

●具体策

- 1、凸版印刷(株)でのアート展を1か月間、凸版ホール1Fで開催、それを「チャレンジドアートコレクション」として、定期開催を目指す。時期としては3月末から1か月間開催 凸版用の作品とエキスポから厳選して展示する。お寺アート展を京都から始め、全国へ広げる。2018年10月から京都・長楽寺からスタート
- 2、ネットワークを構築、強化してJASCAPの運営で、全国の自治体(約700市町村)と連携、アートのみならず障がい者施設で生み出した商品を一手に斡旋する組織を構築。段階を踏んで実現していきたい、大きな事業である。ただ、時にはこのように大きな視点で事業をみることはこれからの当法人にとって必要ではないかと思う。いわば“楽天”の障がい者版である。
- 3、福祉事業に特化することで、さらなる利用者の安定的な確保を目指す。
- 4、その過程で広く会員や利用者を募集して、経営の安定化を目指す。
- 5、エキスポの知名度を上げ、世界的な注目を集めるイベントに仕上げる。
- 6、福祉において先進国であるヨーロッパと交流し、広げることで、当法人の知名度をアップさせ、マスコミへの訴求力を高める。オランダ渡航 9月初旬予定 マスコミ取材必須。

7、これらの施策を実行していく過程で、地元を大切にしたいアート活動を堅実にこなすことが地に足ついた福祉活動となる。ベストをつくして対応、壁画、ブランド化、その他のタウンアートプロジェクトの展開を引きつづき展開する。

特に60周年を迎える一畑百貨店60周年記念アート展(2018年8月23日~29日)を開催することは極めて重要、実質的な販売につなげ、エキスポへの前哨戦としたい。